

幸福の赤いサクランボ



2016年は周囲に雪がまったく元日から始まった。私が就農してから20年間の記録を調べてみると、元旦に積雪がなかったのは2004、1998、1997年の3回で、いずれの年も1月10日には10〜30センチの積雪を記録している。今年のように「積雪ゼロ」が続くのは初めてだ。

ここ数日間、新年のあいさつで多くの人から「雪がなくて、サクランボに悪影響はありませんか」と声を掛けられた。「今のところ大丈夫だとは思いますが。少し雪が降って平均気温が下がった方が、

無加温ハウス 膨らむ構想

季節が妙に早く進まないためにも良いですね」と何度か答えた。



そのような新年4日、天童市荒谷の花輪和雄さんが超促成栽培のサクランボを初出荷したというニュースが流れた。翌日の初セリで、佐藤錦500キロ桐箱入り一箱20万円の値が付き、一粒あたり2941円になるとも伝えられた。

私は昨年、園地拡大の一環として15坪の無加温ハウス栽培施設を新たにつくる計画を立てた。2月から3月にかけて花を咲かせる加温ハウスとは異なり、ポイラーは霜よけ程度にしか使わない。それでも、全体を覆うことで露地より1カ月程度早い5月下旬から6月上旬に佐藤錦を収穫できるように

雪のないサクランボ園で剪定(せんてい)作業を進める。12日、山辺町の多田農園

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリッパ工場長を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、2・1畝のサクランボ園を経営する。

3年後にはしたいと考えている。これまで何度か温室での栽培を検討したことはあったが、コストと生産量、販売額とのバランスをとるのが難しいのではないかと躊躇していた。5月上旬以前の収穫を目指す、降雪や日照不足などのリスクが多く、燃料代などのコストもかかる。販売単価も超促成栽培ほどではないにしても、高くないと採算は取れない。これに対し、無加温ハウスなら管理を徹底すれば、様々な気象リスクを回避出来る。私は現在と同程度の値段で、より長い期間にわたって良質のサクランボを提供できるのではないかと思っている。